

輩一兩人雖有其例、圓融院御後、殊所不見也、就中後三條院御胤中、賜姓爲臣、初出來豈以可然哉、

往昔雖有其例、近代未見此事、但天運令然、又何爲哉、

村上御孫中務卿眞平親王子
土御門右府師房 其後賜源朝臣姓、十二月任侍從、
三條院孫小一條院御子 長元二年十二月八日、
侍從宰相基平 從四位上、元二年十二月八日、
源服日

近代件二人外所不見也、彼人々叙四位、今度叙三位、依父親王之哀憐歟、

〔續世繼花のあるじ〕三宮○後三條皇御子は、中宮大夫師忠の大納言の御むすめのはらに、花園の

左のおど仁有とておはせしこそ、光源氏などもかゝる人をこそ申さまほしく覺給しか○中元

永二年にや侍りけん、中の秋の比、御年十七とや申けん始て源氏の御姓給はりて、御名は有仁と聞えき、

〔尊卑分脈二〕後三條院

輔仁親王

有仁 賜源朝臣姓

〔五代帝王物語 後深草〕順徳院の宮○忠御元服ありしをば、人も何とやらん思たりき、さてつひに

親王の宣旨だにもなくて、其御子三郎宮とておはしまし、は、源姓給りて彦仁とて、正應永仁の比、中將に成て、上階なごせられしかども、三位中將にてうせ給ぬ、その御子を當時つかさなどなり給ぬる、

〔皇胤紹運録〕順徳院

忠成王

彦仁王 正三位右中將賜源姓

善統親王

尊雅王

善成 文和五正六、叙從三位、即賜源姓、

〔尊卑分脈二〕後深草院

久明親王

久良親王 賜源姓